
シェアリングエコノミー関連調査 2020年度調査

SDGsへの貢献、幸福度、社会とのつながり

株式会社 情報通信総合研究所

2020年11月

シェアリングエコノミーに関する調査

調査の背景

- シェアリングエコノミー協会とICRはシェアリングエコノミーの普及・啓発等のための調査を継続的に実施
- 今回はシェアリングエコノミーのSDGs、幸福度、社会とのつながりに対する影響等についてWebアンケートを用いて調査

アンケート調査の概要

- 調査期間：2020年10月14日～26日
- 調査方法：Web（プレ調査、本調査の2段階）
- 有効回答数：プレ調査29,949、本調査2,613

※プレ調査でシェアリングエコノミーを利用しているという回答者に対して本調査を実施

SDGsへの貢献効果

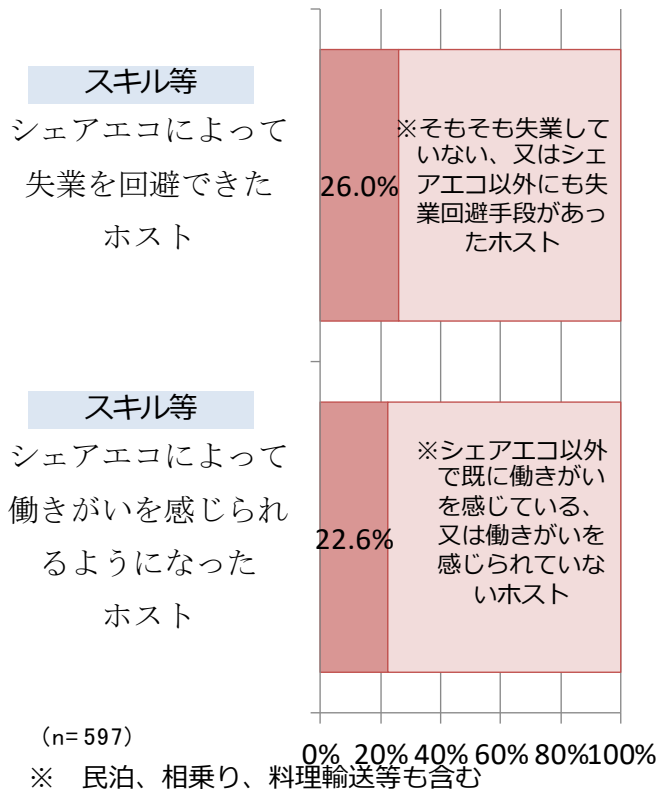
- シェアリングエコノミーはSDGsの多くの項目に貢献する。
- この一部を最新のアンケート結果（2020年10月）を用いて計測。

SDGsへ貢献するシェアリングエコノミーの効果の例	対応するSDGs
•医療・介護サービスが受けられる人の増加（医療・介護スキル）	3 すべての人に健康と福祉を
•ニーズに合う教育を受けられる人の増加（教育スキル）	4 質の高い教育をみんなに
•労働参加できる女性の増加（育児・家事スキル、クラウドソーシング）	5 ジェンダー平等を実現しよう
<ul style="list-style-type: none"> •<u>失業を回避できる人（全カテゴリー）</u> •<u>働きがいを感じる人の増加（民泊、スキル全般）</u> 	8 働きがいも経済成長も
•観光振興（民泊、体験スキル）、企業支援・関係人口増加（専門スキル）	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
<ul style="list-style-type: none"> •<u>移動手段の確保・移動費用の減少（移動全般）</u> •<u>買い物のための移動の負担減少（買い物代行）</u> •<u>都市周辺部と農村部の交流拡大（全カテゴリー）</u>、 	11 住み続けられる街づくりを
<ul style="list-style-type: none"> •<u>新品を購入する人の減少・ゴミの減少</u>・ゴミ処理に伴うCO2排出の減少（スペース、モノ、移動） •エネルギー消費の減少（サイクルシェア、相乗り） 	12 つくる責任つかう責任
	13 気候変動に具体的な対策を

SDGsへの貢献効果の計測結果

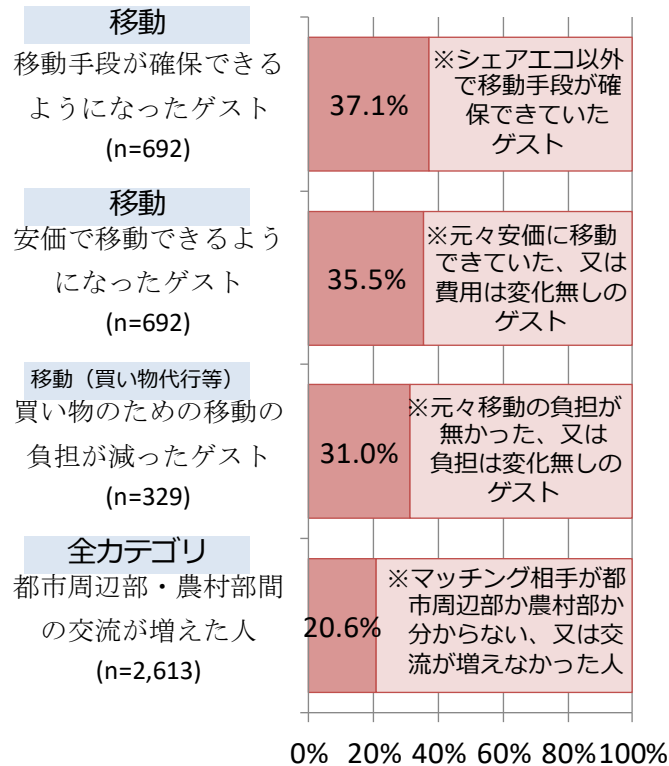
8 働きがいも経済成長も

- シェアエコがなければ失業していた（無収入になった）人が4人に1人以上、シェアエコによって初めて働きがいを感じられるようになった人が5人に1人以上おり、小遣い稼ぎや隙間時間の活用を越えて経済成長への貢献



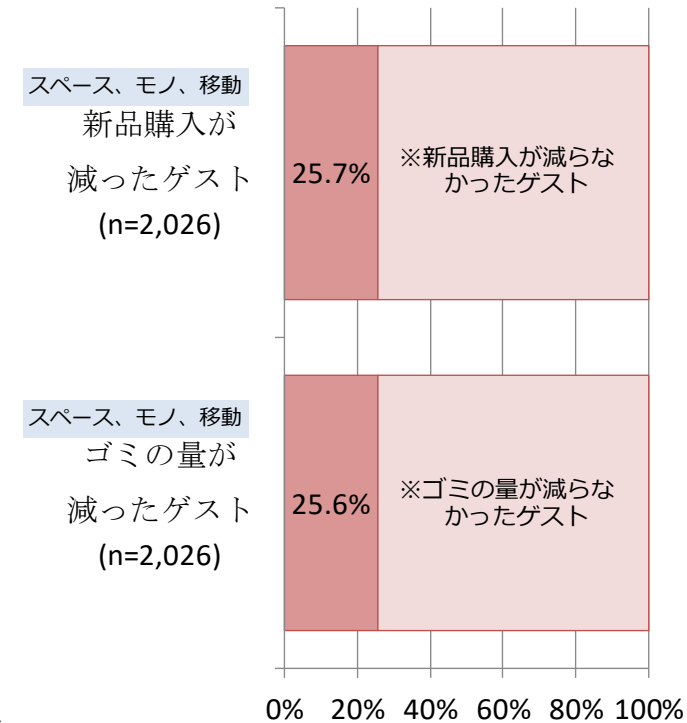
11 住み続けられる街づくりを

- シェアエコによって初めて移動手段を確保できた人が4割弱、移動の費用・負担を軽減できた人が3割以上、都市・農村間の交流が拡大した人が5人に1人以上おり、住み続けられる街づくりに貢献



12 つくる責任つかう責任

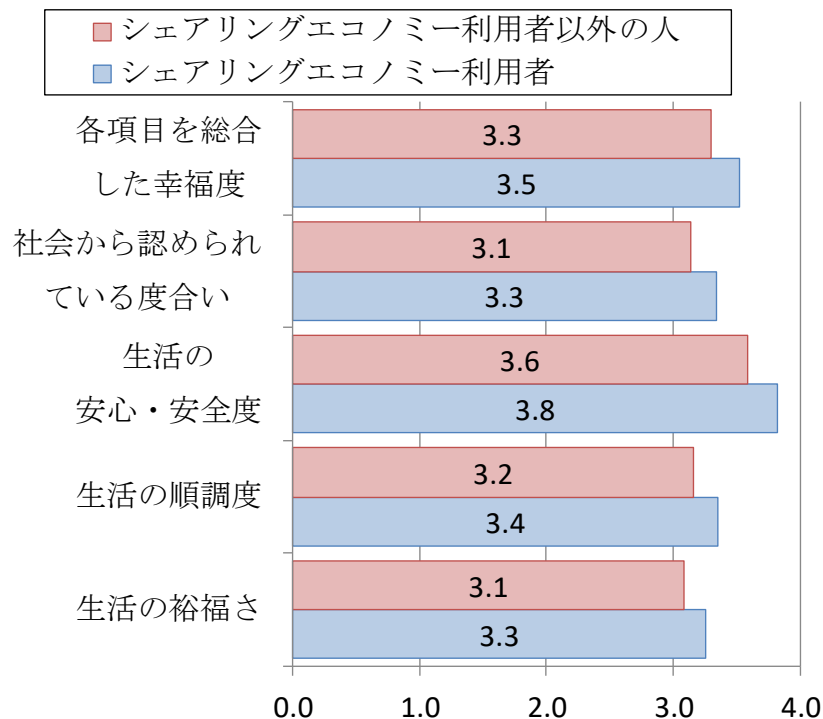
- 単なるサービス利用にとどまらず、新品購入とゴミの量の減少というライフスタイルの変化まで生じている人が4人に1人以上おり、持続可能な生産消費形態の確保に貢献



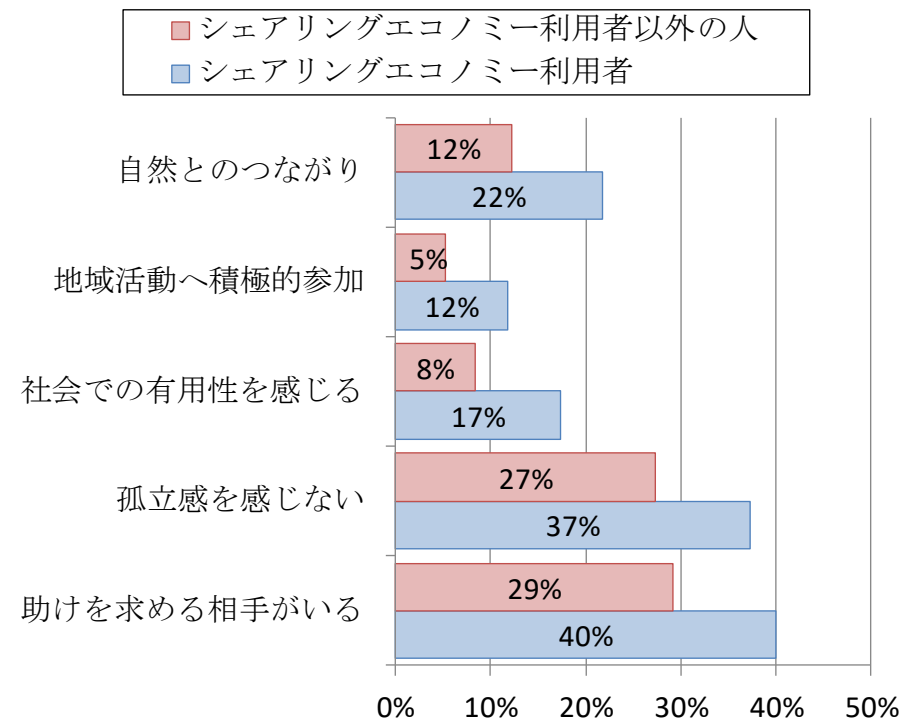
幸福度と社会とのつながり

- 最新のアンケート結果（2020年10月）を用いて、コロナ禍後の変化を計測。
- コロナ禍後においても、前回調査と同様にシェアリングエコノミー利用者の方が非利用者よりも幸福度※2が高く、社会とのつながりが強い。

シェアリングエコノミー利用者※1と利用者以外の幸福度※2の比較



シェアリングエコノミー利用者※1と利用者以外の社会とのつながりの比較



※1 いずれかのシェアサービスによる資産・サービスの提供者又は利用者。

※2 幸福度のスコアは各項目のアンケート回答を「とても高い：6」「高い：5」「やや高い：4」「やや低い：3」「低い：2」「低い：1」と1～6の数値に変換してから平均値を計算した値。

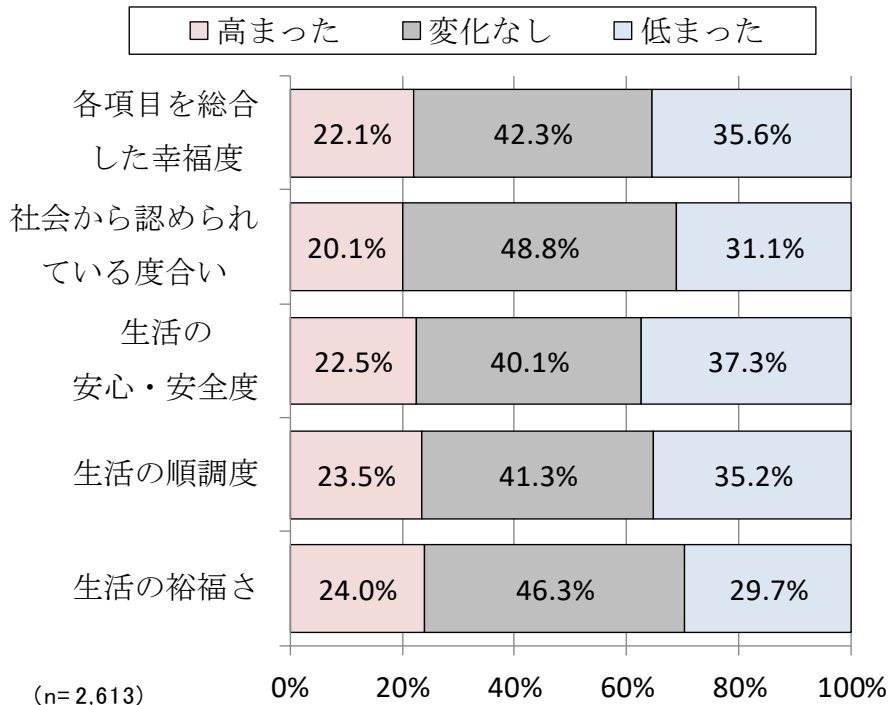
※3 両グラフの各数値は年代別の回答（シェアエコ利用者はn=3,929、利用者以外はn=26,020）を人口でウェイトバックして計算。

コロナ禍による幸福度、社会とのつながりの変化

- シェアリングエコノミー利用者※1の幸福度と社会とのつながりがコロナ禍でどう変化したかを検証。

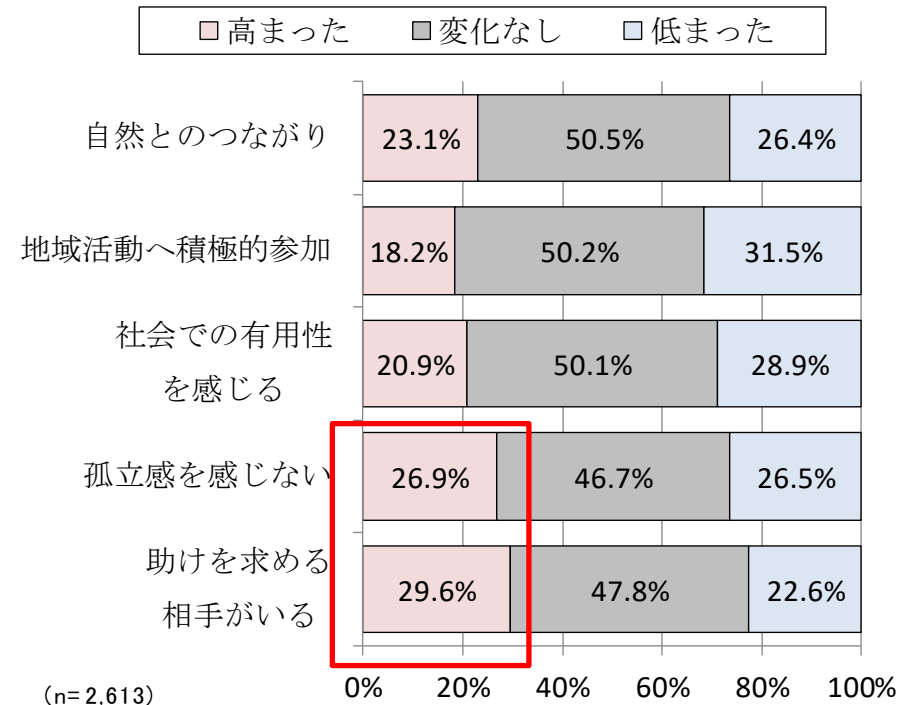
シェアリングエコノミーによって感じる幸福度の変化

- コロナ禍によって幸福度は低まった人が多いが、むしろ高まったという人も2割以上存在



シェアリングエコノミーによって感じる社会とのつながりの変化

- 「孤立感を感じない」「助けを求める相手がいる」は、コロナ禍によって、高まったと感じる人が低まったと感じる人よりも多い



※1 いずれかのシェアサービスによる資産・サービスの提供者又は利用者。